

チェルノブイリ通信

2010年12月10日

No.82

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26パステル館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jimmu@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to/>
■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328
e-バンク ジャズ支店(支店番号201)(普)7017104



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、
現地から求められる医療支援を行います。
この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



ブレストでの検診活動を終え、ミンスクへ向かう検診団一行。

特集：ブレスト第10回検診帰国報告

甲状腺ガン検診スタイルの確立と、
病理スタッフの育成に向けて

医療の担い手から見た、
ベラルーシの文化と医療現場

ベラルーシ紹介 歴史編

今さら聞けないチェルノブイリQ&A

ヘアサロン・スネガビーク報告

2011年度通常総会のご案内

事務局日誌より主な活動報告

会員さん紹介コーナー

募金者のお名前とメッセージ

● 特集 ● プレスト第10回検診帰国報告

甲状腺ガン検診スタイルの確立と、 病理スタッフの育成に向けて

チエルノブイリ医療支援ネットワーク理事／事務局長

川原 秀之



01:プレストでの甲状腺ガン検診。マリナ医師による吸引穿刺。
02:ミンスクでの甲状腺内視鏡手術。 03:細胞診断中の村瀬臨床検査技師。 04:検診に来た女の子とその家族。 05:1年ぶりに再会したアリョーシャさん。婚約者と一緒に。

今年10月3日(日)～11日(祝)の9日間の日程で、医療関係者らとともにベラルーシ共和国を訪問しました。

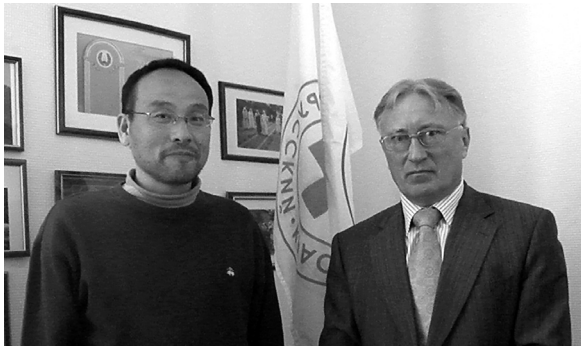
メンバーは日本医科大学教授の清水一雄医師、日医大付属病院病理部の村瀬幸宏臨床検査技師、初参加の宮地麻衣医師、日医大研修医の志摩綾香医師、同学生の竹田玲奈さん、築山敦さん、田中拓さん、2度目の参加となったチエルノブイリ医療支援ネットワーク(以下CMN)会員の福間由紀子さん、そして医療通訳の山田英雄さん、CMNスタッフ川原の計10名。

ミンスクでの清水先生による甲状腺内視鏡手術と医学シンポジウム、プレストでの甲状腺ガン検診など、現地での活動と旅の様子についてご報告します。

期待と不安とともに ベラルーシへ出発

10月3日(日)、一年ぶりに清水先生と会いました。村瀬さんをはじめ、宮地先生、志摩先生の2名のドクターと、日本医科大学の学生3名、竹田さん、築山さん、田中さん、そして会員の福間さんと医療通訳の山田さん、昨年よりも人数が増え、にぎやかにベラルーシの旅を感じます。

成田空港よりアエロフロート機に乗り、予定どおりに17時25分にモスクワへ到着。預け荷物が予定の場所に出てこず、別の場所に運ばれているというアクシデントがありました。



カルヴァノフ赤十字総裁と筆者



病院内を見学



ミンスクのバザール

無事に荷物を確保できました。心の中ではもしかしたらパリまで行ったのではないかと思いましたが、出発して早々、このような困難に遭遇しましたが、この先の旅で何があっても解決策はあると信じた。

モスクワの到着空港から渋滞にはまりながらも何とかミンスク行きの空港へと移動。その頃にはすでに出発から13時間経っており(日本時間では4日(月)午前1時)、とても眠たいものでした。22時20分発のミンスク行きも22時40分(モスクワとミンスクとの時差1時間、飛行時間1時間20分)に無事到着し、23時20分過ぎに宿泊ホテルに到着しまし

た。派遣団の皆さんもかなり疲れていましたが、明日からの希望と不安に心を募らせ、眠りへとつきました。

現地関係諸機関を訪問

4日(月)、ホテルの朝食はともバラエティに富み、また美味しいので、腹八分目どころか満腹になりました。

9時30分にホテルを出発して、ベラルーシ赤十字を訪問しました。カルヴァノフ赤十字総裁よりベラルーシの現状と今後の課題について説明を受け、参加した医師や学生からの質問が行われ、滞在時間をオーバーするほどの熱い議論が繰り上げられました。

した。

これまでの現地と合同での検診活動などを通して、人材育成などソフト面での成果はありますが、CMNの予算には限界があり、大型の医療器材などハード面での支援が厳しい現状です。現地パートナーのプレスト州立内分秘診療所などで、こういった補助金制度を利用してほしいと思います。

大使館を後にし、ミンスク第10番病院へと向かいました。内分泌科主任教授のラリサ・ダニーロバ教授と一年ぶりの再会です。当初の予定では午後から医学再教育アカデミーにてシンポジウムを開催するはずでしたが、スケジュールが変更し、この日は内分秘病棟を見学させてもらうことになりました。

参加者からの声にもありましたが、見学した4人部屋の病室には仕切りカーテンなどなく、患者さんのプライバシーはほぼない状態でした。患者さんのストレスはないのか疑問に思うのと同時に、日本は恵まれた環境にあると思えました。

街の活気を肌を感じる

その後、ミンスク市内繁華街のショッピングモールに出かけまし

次日本大使館を訪問。現地の団体が対象となる外務省ODA「草の根人間の安全保障無償資金協力」について説明を受けま



医学再教育アカデミーでの講演のようす

た。物があふれ、ミンスク在住の人々の活気にぎやかさに圧倒されました。とても国民所得の低い国とは思えませんでした。昼食のレストランにも美味しい料理が並びました。ベラルーシの人々の楽しく、にぎやかに食事をしている姿を見て、日本でのあたふたと忙しすぎる、時間に追われていることを再認識しました。

翌5日(火)の午前中、バザール(市場)に行きました。体育館のような建物の屋内には食肉コーナー、魚コーナー、パンコーナー、ケ

ーキコーナーと分かれて商売をしています。野外ではテントを張っており、そこは果物、野菜コーナーとありました。ベラルーシで生産されているものや採れているものが陳列されていますが、日本でも生産されているものもあれば、ベラルーシでしか採れないものもありました。

日本ではスーパーが主流になっている流通業界ですが、ここでは日本ではすでに少なくなっている対面販売がメインの小売店がまだまだ主流です。バザールで購入したサラダやサラミなどを持ち帰り、ホテルの部屋にメンバーが集まり、お昼ごはんをおいしくいただきました。

医学再教育アカデミーにて講演

午後にはミンスク医学再教育アカデミーにて、清水先生による甲状腺内視鏡手術についての講演が行われました。

ベラルーシでは医療に携わる人々が社会に出た後、定期的に数週間から数ヶ月の再教育を受け、最新の医学知識と臨床技術を習得するというシステムがあります。該当者は全寮制でこの再教育を受け、期間中の給与、交通費、滞在費等は国が保証して



合病院(940床のうち540床が外科病床、400床が内科病床)です。

患者さんはアクサナさん、29歳、女性。ラリサ先生より説明を受け、診察の後、手術が始まりました。第一助手に宮地先生、第二助手に志摩先生です。

手術は2時間2分行われましたが、無事成功しました。

(今回の手術について詳しくは次号の「チェルノブイリ通信」にて清水先生よりご報告いただく予定です。)

その後、同アカデミー所長のユリー・デミチク教授より、清水先生、医療通訳の山田さん、CMNの3者へ、これまでの功績に対する感謝状が贈られました。

14時半にミンスクに別れを告げて、プレストへと旅立ちました。予定より早く18時半にプレストへ到着し、今日の手術の成功を祝って、派遣団10名とドライバー

います。

今回の講演には同アカデミーで研修中の内分泌科医、内科医ら約30名が参加し、活発な質疑応答がなされました。

ミンスクでの甲状腺内視鏡手術

6日(水)午前、ミンスク州臨床病院にて、清水先生による甲状腺内視鏡手術が行われました。同病院はミンスク州における総

2名とでささやかなお祝いをしました。

プレストはミンスクより南(約400^{キロ})なので、ミンスクより寒さを感じませんでした。

甲状腺ガン検診スタイルの確立

7日(木)、2007年に日本医科大学で甲状腺内視鏡手術を受けたアリョーシャさんがプレスト州立内分泌診療所へ来てくれました。今回は恋人も一緒でした。来年の10月に結婚されるそうです。

7、8日(金)の両日で計50名の検診を実施しました。エコー診断、細胞の穿刺吸引はアルツール医師、ウラジミール医師、マリーナ医師らの現地スタッフで問題なくこなし、日本からの参加者への技術指導もなされました。細胞診断は村瀬さんの頑張りで、滞在中に仮診断を出すことができました。診断結果は悪性1名(乳頭ガン)、良性40名、識別困難9名でした。

また今回参加された若いドクターや医学生の方々には採取した細胞の染色作業を手伝っていただいたり、ロシア語のできる会員の福岡さんには検診に来た患者さんへのインタビューにご協

力いただいたりなど、色々な面でサポートしていただきました。

病理スタッフの育成に向けて

課題である病理スタッフ育成に向けては、日医大付属病院の渡會臨床検査技師らの協力、助言を得て、細胞診断の症例集作りを計画しています。バーチャルスライドという、本当の標本を操作するような感覚で画像を動かすことのできるソフトを提供することによって、細胞診断の技術習得に役立てるといふものです。日医大で作成されたデータをロシア語に翻訳する必要がありませんが、完成すればベラルーシ国内に診断技術を広める良い方法になるのではと考えられます。



プレストでの検診スタイルは確立されつつあり、私たちの支援のあり方も見直される時期に来ています。

恒例のプレスト要塞見学

毎回必ずと言っていいほど足を運んでいるプレスト要塞へ、やはり今回も行ってきました。ロシア革命後の1918年に結ばれた「プレスト・リトフスク講和条約」(第一次世界大戦中にロシアが単独でドイツと締結した講和条約)について聞いたことのある方は多いのではないのでしょうか。現在のポーランドとの国境付近に位置するプレストは、第2次世界大戦時にドイツ軍が侵攻してきた土地でもあります。国境付近に建つ要塞には、無数の弾丸の跡が見られます。

9日(土)の朝、プレストを出発し、再び首都ミンスクへ向かいます。途中、湖畔のカフェにて昼食をとりました。周辺には白樺の木が生え、その周りには小人や犬、猫、熊などの不思議なモニュメントがあります。ミンスクへの道のりには本當に自然が多く、ここが

放射能の汚染地域だということ忘れてしまいそうになります。

ベラルーシ最後の夜は、近所のスーパーで食べ物、飲み物を買って、ホテルの部屋で仕上げをしました。

旅を終えて

翌10日(日)のお昼にミンスクを出発し、往路同様モスクワ経由にて翌11日(祝)に無事に帰国しました。

今回は昨年より4名も参加者が増え、活発にそして十分効果が増えた検診団でした。現地においてCMNがこれまで培ってきた積み重ねを認識し、期待されていることをこれからも少しずつでもできるようにしたいと感じました。

今回も意義ある検診団とすることができたのも、参加していただいた清水先生、村瀬さんはじめ、皆さまのおかげです。そして何よりも、検診団のことを常に陰になり陽になり支えてきていただいた会員の皆さま、寄付をしてくださる方々の協力の賜物だと思えます。この場を借りてお礼申し上げます。

行ってきました！初めてのベラルーシ！

医療の担い手から見た、 ベラルーシの文化と医療現場

今回のベラルーシ訪問には、日本医科大学の清水先生と村瀬さんのほか、6名の若い医療関係者が参加して下さいました。これからの医療を担う若者たちの目に、チェルノブイリの被災地ベラルーシの医療現場や人びとの生活はどのように映ったのでしょうか。ベラルーシ滞在中に皆さんへインタビューしてみました。

(インタビュアー:福間由紀子さん)



まず今回参加しようと思ったきっかけは？

宮地：同級生や上級生が参加しているのを見て、自分も参加したいなと思っていました。でも1週間ちよつとの休みがとれるチャンスがなくて。もともと小児の悪性腫瘍に興味があつて、チェルノブイリ原発事故と腫瘍の発生の関係にすごく興味があつたのと、旧ソ連というなかなか来ることのできない土地に来るのも魅力的だなと思つて参加しました。

志摩：私は今研修医1年目なんです。今年5月頃に清水先生から「10月くらいにベラルーシに行つてオペをするんだけど」とつていうお話をいただきました。もともと外科系に進むことを考えていたので、研修医はじまつて1年目という早い時期に海外でオペに参加できるのはすごくいい動機づけになるかなと思つて、参加することを決めました。

田中：僕は去年、一昨年に参加された田中さんや大内さんと仲が良くて、お二人から「行くと楽しいよ」と言われました。

築山：僕も大先輩の清水先生がこういった支援活動をなさつて

いるのはすごく有意義だと思うし、チェルノブイリやベラルーシについて知ることも大切だなと思ひました。それだけじゃなくて、こういった活動に関わることは医師として人間性を高めるために大切なことだと思つて、参加させてもらいました。

竹田：私も清水先生のチェルノブイリでの活動に関するお話を聞いて、その活動が本当に必要なとされる医療だなつていうのをすごく感じました。そんな価値のある活動に参加して、自分の目ですつかり見て感じるのができたらなつて強く思つたのがきっかけです。

出発前のイメージと比べて、実際に来てみてどうでしたか？

志摩：最初はもつとすごく何にもなくて、人もあまりいないのかなと思つていたのですが、来てみたら、ミンスクもプレストも、人もたくさんいて、トロリーバスとかもたくさん走つていて、車もたくさんあるし、予想とは違つてとても近代的な街でした。

築山：僕が思つていたのはとんでもないイメージで、街をちよつと歩けば熊が出てくるんじゃないかと想像していました(笑)。でもそ



ミンスクの街並み

んなことはなくて、むしろすごい都会で、日本医科大学の病院のあるところよりも本当に都会な感じがしますね。

田中:ベラルーシという国の存在をそんなに知らなかったですけど、清水先生から色々話も聞いて、写真を見せてもらったら「あ、結構都会なんだな」と思いました。あとは「きれいな人が多いよ」って言われていたので、期待してました。実際来てみたら、ミンスクのホテルもきれいだっし、街並みとかもすごくきれいでしたね。日本みたいにごみごみしてなくて、

広くてゆとりがある感じです。病院もすごく広がった。

病院の中もきれいでしたね。

田中:はい、人も優しいです。こちらの方のほうが日本の看護師さんよりも優しい気がします。

竹田:確かにそうかも(笑)。私のイメージは途上国っていうほどではないけれど、そんなに豊かではなくて、格差のある国なんじゃないかなというものでした。でも思っていた以上に生活は豊かだし、ミンスクの街並みもきれいで、しっかりと整備されていてびっくりしました。

宮地:私も田中君と同じで、ここに来るまでベラルーシという国のことを全然知らず、名前もかろうじて聞いたことあるかないかくらいの知識でした。社会主義国なんだけど、きれいで、モノも豊富で、ちよつと社会主義に対するイメージも変わりました。あとは現地の医者もずいぶん育っていて、むしろ今回参加した研修医や学生たちが技術を教わる立場になっているので、今後この活動を続けて行く意義とか、経済的にどうやって支

援していくのかということを考え直していかなければいけないと思います。

志摩:確かにプレストでの検診は、これまでの活動で技術がある程度あちらの方にも伝わっているのでも、支援する地域を新しく開拓してもいいかなと思いました。

では食事とか、文化といってもわずかな間しか接していないですけれど、何か特に印象に残ったことはありますか？

宮地:他のヨーロッパの国々と同様、街並みがすごくきれいでした。食事もおいしかったです。

竹田:私もごはんはどれもすごくおいしかったです！特にドラニキ(※じゃがいもをすりおろして焼いたパンケーキ)とボルシチが大好きになりました。

築山:今はやりの言葉でいうと、圧倒的にこちらは肉食系だな。僕らがどんだけ草食男子かということがよくわかりました(笑)。肉、じゃがいも、肉、じゃがいも、油で揚げたみたいな。僕らでもあんな食事をしていたら、年をとったら太っちゃいますよ。

じゃあ食生活に改善の余地ありと。

築山:ありますね。こういう食生活だから、糖尿病や高脂血症もこちらで非常に重要な病気になっているのではないのでしょうか。

やっぱり医療関係の人は視点が違いますね。ではバザールはどうでした？

田中:とても安かったです。物価が日本とこんなに違うんだと思いました。でもあの時間(※平日の日中)にあんなに人がいっぱいいたので、「みんな働いているのかな?」何やっているんだろう?」とちよつと思いました。中高年くらいの方が結構いましたからね。

いくつか病院施設を見学しましたが、それについての印象を聞かせて下さい。

志摩:病室が印象的でした。日本だと何人部屋であってもカーテンで一人一人のスペースが仕切られて、ある程度プライバシーが保たれているかと思えますけど、今回見学させていただいた4人部屋は、個人個人の仕切りも何もなくて。本当にただ病気を治すため

けの施設といったらおかしいですけど、個人のプライバシーに関してはあまり確立していないのかなと思います。病院自体は全体的に暗いですけど、エコーなどの機械は日本医科大学で使っているものより新しいもので、医療もとても充実しているなと思いました。

竹田…二番意外で、印象に残っているのは再教育っていうシステムです。日本にもそういうシステムがあつたら、結婚とか子育てとかで一度医療現場を離れた人でも、そういった施設でしつかり教育してもらえば、もっと働きやすかつたりするのになって思いました。特に大病院みたいな大きな病院で最先端のことをやろうと思う向上心のある女医さんには。

田中…日本ではこちらのように徴兵制がないから、男の人にはなかなか利用する機会がないかな。でも女性にとつてはいいシステムだと思いますね、一度離れてもいいから。やっぱり子どもを産んだりするとなかなか現場復帰が難しいと思う。

竹田…ラリサ先生の話では、女子医学生がだいたい50%より多いということでした。実際ラリサ先生

もお母さん先生だし、プレストのマリナ先生もそうだし。教授クラスやベテランクラスで、現場でもバリバリ活躍されていらっしゃるお母さん先生が本当に多い気がして、憧れるっていうか、うらやましいなと思いました。

特に印象的だった病院はありますか？

志摩…手術をした病院(※ミンスク州臨床病院)ですね。日本だと地域の中に病院があるという感じなんですけど、オペをした病院は本当に病院だけの区域みたいな、昔の日本というサナトリウムみたいな感じの、ちよつと隔絶された世界かなっていう、不思議な感じでした。

田中…10番病院の屋内の吹き抜けがきれいでした。途中で迷子になっちゃいましたけど(笑)。それとオペ室でいきなりおばちゃんに話しかけられたのでびっくりしました。「(ロシア語だから)何言ってるだろう?」みたいな。

手術中でしたからね。でも田中さんはどこに行っても人気者でした。では今回参加してよかったことは?

宮地…全部というか、こうやって医療活動に関わりつつ、観光もできて、とっても良かったと思います。

田中…やっぱり日本以外の国の医療を見れたことが為になったというか、勉強になりました。

築山…この活動がこの国に貢献したとか、そういったマクロなことまではまだ考えられていないですけど、まだ代謝内分泌という分野の実際の現場を日本で見ていないので、そういったものをこちらで実際見る機会になって良かったです。

志摩…ベラルーシってあんまり旅行するところじゃないので、そういう社会主義の国に来て、現地の人とある程度一緒に検査したり、手術したりっていうのが、やはり駆け出しの医者にとつてはすごくいい経験になったと思います。違う国の医療関係者と接することができたから、す





ミンスク州臨床病院にて



アルツール医師によるエコー所見

ごく新しい世界が開けたかなって。

竹田:本当に色々なことが勉強になりました。とても楽しかったです。もつと色々なことが知りたくて知りたくてしようがないので、帰ってから色々調べます!

皆さん、すごく前向きですね。ではCMNについて、まずご存じでしたか?

志摩:団体については今回清水先生にこのお話をいただくまで知らなかったのですが、会報などを送っていたら、「日本でもこんな活動をしているのだな」と驚きました。言葉の問題とか、文化の問題

とか、医療の質の問題とか、最初のほうはすごく大変だったと思いますが、その活動が広まってきて、細胞診の技術とかも皆さんとても上手だったので、この活動の意義がすごくあるなと思いました。

築山:僕も清水先生からたくさん聞きました。この滞在中にも、お金を有意義に使うべきだとか、この地域が適正なのかということ、を福岡さんと川原さんが一生懸命話されていて、そうだったけど、議論はすごく大切だし、意義があると思います。でも数年前はその支援や活動がすごく大切だったわけで、その成果がこの議論を生んでいて、「この支援いらんないんじゃないの」っていう姿勢になっている

と思う。だからこれまでやってきたことがすごく実になつていて、という現実をとらえて、むしろそれを喜んでいいと思います。

竹田:私もこれまで知

りませんでしたけど、たぶんすごく大変だなと思います。今回参加して、自分の目で見て、チェルノブイリの被害に遭った人と接したり、支援活動に関わっていらっしやるベラルーシ側の人、日本側の人から色々な話を聞いて、すごく勉強になったし、それと同時に、いろんな人に知ってもらいたいと思いました。ぜひぜひ頑張ってください。

今回のスケジュールや運営などについて何かありますか。

宮地:せっかく参加する学生、研修医が増えてるので、もうちょっとうまいこと仕事に組み込んでもらえたらいいですね。自分たちも医学の勉強をしている立場なので、できることは少ないかもしれないけど、何か仕事という形で役割があると嬉しいかなと思いました。

築山:僕らは医師の資格を持っていないから、何もできないといえませんが、でも多少なりの知識はあるし、将来これを生業にしようと思っている人たちだから、何かできることがあるはずだと思います。そういった機会を与えられれば、僕らにもすごく良い経験になる。

研修というよりも視察という感じで、皆さんにとっては中途半端な気がしないでもないですよ。ありがとうございます。では最後に何かあればどうぞ。

志摩:内分秘外科に進んだら、またぜひ参加したいと思います。

竹田:まだ想像の段階ですけど、清水先生や築山君たちと話していることがあって。今回の旅を個人的な思い出として終わりにしたくなくて、是非今回学んだことをさらに発展させて、色々な論文を読んだりとか、他にも広島や長崎のこととかも医学的な面でもっとしっかり勉強して、ゆくゆくは論文みたいな形にして、発表してみたいと思います。私もチャンスがあったらまた参加したいと思います!

(※滞在中に個別にインタビューしたものを編集しています。ご協力いただいた初参加の皆さん、そして福岡さん、ありがとうございます。)

函館のロシア語普及運動

「ロシアノイロハ」

大島 幹雄

初代の在函館ロシア総領事ゴシケービッチはベラルーシの人であった。新たに見つかった資料をもとにキリスト者として日露の文化交流に努めた彼の足跡をたどってみよう。

初代駐日ロシア領事となったゴシケービッチは、外交官としてだけでなく、日本学者としても知られている。

ペテルブルグの東洋学研究所には、彼が日本から持ち帰った貴重な文献資料が収蔵されているが、

ベラルーシ 紹介 歴史編 ゴシケービッチ ノート ①

新連載

ここには一三四六点にも上る木版画や江戸末期の写本、それから四七点の地図が収められている。彼が集めたこれらの文献資料は、ロシア・ソビエトの日本研究に多大な貢献をした。

ベラルーシの司祭の家庭に生まれ、ペテルブルグの神学大学で学んだ後、およそ十年間ロシア正教伝道団の一員として北京に滞在、その後外務省に入ったゴシケービッチが、日本への関心を抱くようになるのは、プチャーチン使節団*に加わって来日した時であった(二八五三〜五五年)。

帰国の際、ゴシケービッチは日本人密航者橋耕斎を伴い、その協力を得て一八五七年最初の本格的な和露辞典「和魯通言比考」を刊行する。この辞典は、彼の日本学者としての最大の功績といつていいだろう。

このあと、ゴシケービッチは日露通好条約(一八五五年締結)にもとづき、一八五八年に駐日ロシア領事として函館に赴任した。函館で彼は幕府に働きかけ、留学生をペテルブルグに派遣させるほか、病院を建設して日本人を治療したり、領事館付司祭として来日した二

コライの布教活動を援助するなど、ロシア文化の紹介に努める。

函館で彼が熱心に取り組んだのは、ロシア語の普及運動である。ゴシケービッチが函館に赴任したとき、宣教師のイワン・マホフを同行していた。このマホフが木版で「ロシアノイロハ」という十頁の小冊子をつくっている。これは一人でも多くの日本人たちにロシア語に親しんでもらおうということで作られた本だった。

一頁には子供向け片仮名で「ヲロシヤノ、サムライハ、ニッポンノ、ゴドモ、ミンナニ、シンセツ、ロシアノ、イロハ。」さらに二頁には、「カシコイ、ゴドモ、トツテ、コレハ、イロハ、マナンデ、ヨム、カク、カツマタ、イフ、ヲロシヤノ、コトバニ」とあるように、日本の子供にも親しんでもらおうとしたものであった。

「ロシアノイロハ」はゴシケービッチのロシア語普及運動の最初の種まきであった。

「プチャーチン使節団」について

帝政ロシアの提督プチャーチンは、二〇〇〇トンのフリゲート艦ディアナ号に乗り、嘉永七年九月、突如、大坂湾天保山沖に現れたのち、幕府の指示に従って十月十五日に伊豆半島南部の下田港に投錨。十一月三日、江戸から急行した川路聖謨と第一回日露交渉が開かれた。

十一月四日、駿河湾から遠州灘、熊野灘に及ぶ広大な地域が巨大な身震いに襲われた。マグニチュード8.4といわれる「安政東海地震」である。

ディアナ号は突然浅瀬に乗り上げたような衝撃を感じ、激しく振動した。舵を失い、竜骨を損傷する大破のなかで、プチャーチンは外科医や通訳とともに上陸し医療活動を申し出る。その後、ディアナ号は修理のために戸田村に向かうが、ついに沈没する。

安政二年の正月からディアナ号の代船の建造が本格化した。戸田村を中心に伊豆各地から船大工や鍛冶職人が集められ、ロシアの技術将校らの指導のもとに、長さ二十三メートル、約百二十トンの二本マストの帆船を建造した。そして、ここで働いた船大工の何人もが明治の造船界をリードする技術者になったのである。

大島幹雄／ドキュメンタリー作家
昭和二八年宮城県石巻市生まれ
早稲田大学露文科卒業

いまさら人にはきけない?! 5か月前なぜ甲状腺ガンはふえたの? チェルノブイリ

イヤイヤ 意外としらない

突然ですが、クイズです

やったー! じゃ、ごほうびは『コウちゃんの故郷ペラルーシをめぐる旅5日間』にしてよ

もっと大きくなって自分で行きなさい

…そうそう、あなたたちが大きくなるには、甲状腺のはたらきがたいせつなのよ

大正解!

「どうしようせん」はどれでシヨウ?

① ② ③ ④

で、チェルノブイリ事故では、その甲状腺に何かおこったの?

その甲状腺ホルモンのもとになっているのが「ヨウ素」(ヨード)こんぶなどの海藻にたっぷり含まれているの

からだに取り込まれたヨウ素は、甲状腺に集まって、げんきのもとになるといわれているの

甲状腺は、子どもの成長やおとなの新陳代謝の調整をする

「甲状腺ホルモン」を出しているのよ

げんきな身体になるにはかかせないホルモンってことね

ふせぐ方法はなかつたのかな…

悪さをしてガンを引きおこしたんだね

そう、甲状腺は放射性的ヨウ素131を、身体に必要なヨウ素と間違えて取り込んでしまった…

あっ そっくり!

放射性ヨウ素131

事故でとびだした放射性物質の中には「ヨウ素131」というものがあつたの

あら? わかめきらいだったんじゃ…

お母ちゃんみそ汁わかめ大盛りで!

事故のすぐ後にヨード剤という薬をのんで甲状腺を満たしておけば、予防になったはずだけど…

事故自体のことを知らされてなかつたんじゃあ、手の打ちようがなかつただらうねえ

日本の人たちは、海藻をよく食べるからヨウ素がよく足りてると聞いていたことある!

ペラルーシは海が遠くて海藻を食べたりすることが少ないから、ふだんからヨウ素が不足してたの

先にヨウ素でいっぱいになってたらヨウ素131の入るスキがないんだけど



報告 / 和田幸策

今年も無事に終了！ ヘアサロン・スネビーク2010

7回目の開催

リピーターも増加

今年も無事に終了した、第7回チャリティヘアサロン・スネビーク。今回はチエルノブイリ医療支援ネットワークの設立20周年とも重なり、節目の年の開催となりました。

当日の会場準備やリハールもオープンに向けて着々と進む中、会場の外では、すでに並んでくださったというお客さまもいらっしゃいました。毎年の事ですがオープニングは期待と不安が入り混じる瞬間です。

オープンと同時にお客さまをお迎えし、テレビ局の取材もあつて、会場内も少しずつ活気に溢れだしました。今年は会場内のレイアウトを変えて、各持ち場のすみ分けをはっきりとさせました。全体の流れもスムーズに進み、昨年のようにお客さまを長い時間お待たせすることもなくなり、快適な空間作りに一歩近づいた感じがします。まだまだ改善点がありますが、これからも工夫とアイデアを積み重ねて、より良いものを提供していければと思います。

シャンプーからカット、ブローへとスタイリストやアシスタントの方々や大村美容ファッション専門学校の学

生ボランティアさんの丁寧で細やかな対応にお客さまも非常に満足されていたように感じました。

お客さまの中には「このイベントに参加したくて休みをとりました、また来年も参加します」という方もいらして、このイベントも確実に浸透してきていると思うと嬉しくなりました。それとともにこのイベントの意義やチエルノブイリ原発事故、ベラルーシという国の事をもっと知ってもらい、定着させていかなければと思います。

今回は131名の方が来場してくださり、リピーターの方も昨年より増えました。お昼のテレビニュースを見て来てくださった飛び入り参加のお客さまも沢山いらっしゃいました。

最後に今回のイベントに参加してくださった協力サロンの皆さん、大村美容ファッション専門学校の先生方と学生ボランティアさん、事前準備や当日お手伝いくださったボランティアスタッフの皆さんに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



01:オープン前の全体リハーサル。皆さん真剣です。02:テレビ局の取材もありました。03:たくさんの方に会場いただきました。大盛況! 04:会場そばで宣伝をするマトリョーシカちゃん。05&06:スタイリスト、アシスタントの皆さん、今年もお疲れ様でした。本当にありがとうございました! 07:小さなお子様からご年配の方まで、老若男女問わずたくさんの方が参加されました。良かったら来年もぜひ来てね!

◆協力サロン・美容師の皆さん・・・

hair Nu-DA/ヘアヌーダ(Tel:092-715-2770)
ETOILE/エトワール(Tel:092-711-1738)
ANGLE/アングル(Tel:092-846-3335)
hair double/ヘアダブル(Tel:092-731-3104)
大村美容ファッション専門学校の先生方

◆会場提供・・・

学校法人 大村文化学園

◆協賛・協力・・・

有限会社グロウ
グリーンコープ生活協同組合ふくおか
(特活)NGO福岡ネットワーク(FUNN)



●来場者アンケートより●

- ・ 昨年に引き続き参加させて頂きました。気軽にできる社会貢献!すごくいい取り組みだと思います。
- ・ 今後もこのような活動を続けてください。もっとたくさんの方に知ってほしいし、伝えたいと思います。
- ・ 髪を切ることで少しでも誰かのお役に立てた気がしてうれしかったです。
- ・ 大げさな寄付とかする財力はないけれど、チャリティーに参加することで誰かの役に立つことができるならばうれしいです。
- ・ 初めての参加で感動しました。私でもできることからさせて頂きたい、皆さんの好意も伝わってきました。

カット料金、物販売上、会場カンパ、協賛金、福岡市NPO活動推進補助金の収入合計より



今年のスナガビークでは・・・

諸経費を差し引き、**229,229円** を医療支援カンパへあてることができました!

2011年度

通常総会のご案内

2011年度通常総会を開催します。今年一年間の活動報告と、来年度の計画を検討します。正会員(議決権あり)でない方もオブザーバーとして参加できます。

●日時:2011年2月19日(土)17時30分

●場所:福岡市NPO・ボランティア交流センター

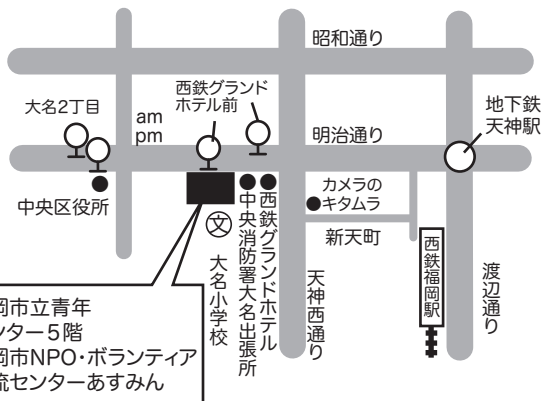
「あすみん」セミナールーム

(福岡市中央区大名2-6-46-5F)

●内容:今年度事業報告・収支決算報告および承認
次年度事業計画・収支予算の承認など

★資料の準備があります。参加ご希望の方は事前に事務局までご連絡ください。

地図はこちらです。同日19時半よりプレスト第10回検診の婦国報告会を行います。あわせてご参加下さい。



*福岡市営地下鉄「天神駅」より徒歩4分
*西鉄バス「西鉄グランドホテル前」より徒歩1分
「大名2丁目」より徒歩2分

駐車スペースはありません。
なるべく公共の交通機関をご利用ください。

あすみんTEL:092-724-4801

※会場は変更になる場合があります。詳しくは事務局までお問合せください。

事務局日誌より 主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。す。
<http://www.cher9.to/>

◆8月28日 マトリョーシカ絵付け会



福岡市NPO・ボランティア交流センターにて、マトリョーシカ絵付け会を開催しました。
会員さんや一般の方など計15名の参加があり、みなさんそれぞれの個性が光っていて、工夫をこらしたマトリョーシカが完成しました。詳しくは事務局ブログでも報告しています。

かわいいですね！

◆9月25日 NGOカレッジ説明会に参加



NGO福岡ネットワーク主催、毎年恒例の連続講座「NGOカレッジ」の協力団体向け説明会に行ってきました。今年の「NGOカレッジ」では受講生を対象とした体験プログラム（通称ボラタン）があり、CMNもこのボラタンの受入団体になっています。この会報が出来るころには、CMNのボラタン生が決まっているはず！?

説明をきいています。

◆10月10日 ハートフルフェスタ福岡2010



秋の恒例イベント「ハートフルフェスタ福岡」に今年もブースを出展し、活動紹介と物販を行いました。
会場が福岡市役所前広場だったので、一般の方のご来場も多かったように思います。お天気にも恵まれ、会員さんがブースに来てくださったり、色々なブースを見て回れ、楽しい1日でした。

マトちゃんも出現。

◆10月11日 ヘアサロン・スネガビーク2010



2004年にスタートし、7回目の開催となった「ヘアサロン・スネガビーク」が今年も無事に終了しました。詳しくは別ページで報告していますので、ぜひ一読ください！今年はりぴーさんも多く、少しづつ知名度も上がってきているように感じます。今後も続けていきたいと思っています！

今年も大盛況☆

◆11月6日、7日 地球市民どんたく2010



福岡のNGOが一堂に会する国際協力フェスタ「地球市民どんたく」に今年も参加し、ブースを出展しました。今年にはコーヒーマグの売り場を設けたので、わりとのお客さんで対応できました。2日目にはボランティアさんの強力助っ人もあり、華やかなブースとなりました。

元インターンの小野さんも参加！

レポート

インターンさん、ついにっやっ。

福岡教育大学教育学部 共生社会教育課程
国際共生教育コース3年
小野 むつ美

今回のインターンの中ですごく印象的だったのは、たくさんの方の支えがあって、この「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」が成り立っているという事です。

会員さんが事務所を気軽に訪れてくださったり、イベントに参加してくださった方々の楽しそうな姿をみると、本当に皆さんに支えられて成り立っているんだと実感しました。

また8月に開催されたマトリョーシカ絵付け会でも、広報、準備、当日の運営と様々なお仕事を通じて、貴重な体験をさせていただきました。

参加された方がこのイベントをきっかけに、チェルノブイリ支援に少しでも関心をもってくださるかもしれないと思うと、そのきっかけに携わることのできる、とてもやりがいのある仕事だと感じました。

私はまだほんの少ししかNGOの活動に関わっていませんが、これまで出会ってきたNGOに関わる方々はみんないきいきしていると感じています。そしてこのインターンの間にもまた新たな出会いがあつて、ますますNGOの現場に関わりたいと思いました。本当に充実した日々でした。

今後もボランティアとしてはもちろんですが、この経験を生かして、これからにつなげたいと思っています。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。



マトリョーシカ絵付け会にて

私も応援しています！
会員さん
紹介コーナー
Vol.10

このコーナーでは、チェルノブイリをともにお支えいただいている会員の皆さまより、活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材／小山

本日の会員さん

大庭 きみ子さん

<福岡県朝倉市>

大きなことはできないけれど、

会員としてきこやかな支援を続けたい。

しました。

この実話は、平和事業実行委員会によって



いは、数年前に朝倉市で開いたチェルノブイリの学習会に参加して下さったこと。原爆被爆の問題と同様に、事故当時からの報道に接して胸を痛めてきた、チェルノブイリ原発事故被災者への支援の必要性を感じておられました。

「CMNの活動には感動と共感をもっています。これという大きなことはできませんが、せめて会員としてきこやかな支援を続けていきたい」と語られます。

「私たちは原子力発電の恩恵を受けていますが、危険性も大きいです。原子力に頼らないエネルギー政策を進めなければなりません。その国だけの問題ではなく、世界に影響を及ぼす問題だからです。そのために政治家として政策づくりをしていきたい。そしてまずは現実を知ること、そしてそれを知らせていくことにも力を入れたい」

「被爆国でありながら世界に貢献できることのすばらしさ。いや、被爆国だからこそしなければならぬこととです。それを行っているCMNを誇りに思います」

最後に、朝倉市の平和祭のときなどに、チェルノブイリの募金箱を置いたりしてはどうでしょう、とのうれしい提案もいただきました。今後、何かの形で協力しあつていけたらと感じました。

ご自宅は朝倉市(旧甘木市)の閑静な住宅地にありました。広い庭には、たくさんの人で会食ができるテーブルがいくつか。

「昨日も演劇をやっている子どもたちと一緒に食事会と花火大会をしたばかりなんですよ」

おもしろい活動をされているようだな、とお話への期待がふくらみました。

大庭さんは今年の2月まで、2期7年間、朝倉市議を務めてこられました。政治家としてこれまで、平和・教育・福祉・人権などを常に訴えてこられたそうですが、「平和であつてこそ」の信念を強く感じました。そこには、保育の仕事を長くされ、子どもたちに平和な未来をとの思いが土台にあるようです。

「平和でありすぎるため、平和への意識が薄れている」とも語られる大庭さんは、戦後65年を過ぎても世界で戦争はまだ終わっていないとの思いから、原水禁の平和行進に毎年参加されたり、

沖繩での平和行進にも参加の経験があります。

合併して5年の朝倉市ですが、非核恒久平和都市宣言が白紙になっていました。そこで、市議として提案し、市民に働きかけて3121名分の署名を集め、他の市議にも賛同を求め、結局、全会一致で朝倉市を非核恒久平和都市とすることが決まりました。

また大庭さんは、朝倉市平和事業実行委員会の活動にも力を入れておられます。この会が中心となって、毎年8月の第二日曜日に朝倉市で開かれているのが「朝倉市民平和祭」。これまで20回を数えています。冒頭で紹介した演劇の上演がその中で続けられています。

朝倉市と隣接している大刀洗には、神風特別攻撃隊の訓練場でもあった飛行場がありました。そのため、1945年3月27日、米軍のB29による爆弾が朝倉市の「頓田の森」で炸裂。森に避難していた31名の子どもたちが命を落と

また大庭さんは、朝倉市在住の長崎・広島原爆の被爆者への聞き取り活動なども行い、地域の戦争の実態を掘り起こし伝えて行く活動にも力をいれているそうです。

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同 敬称略)

浅井由美子 飯岡知子 井上裕子 岩崎郁代 上野三佳子
NPO法人じゃがいものおうち 榎本みつ枝 遠藤礼子 太田
千賀子 沖・中西・渡辺 金口律子 亀井廣子 河上しげみ 神
崎幸子 神田香織 菊池順子 岸川洋子 木下るみ 木村みさ
子 グリーンコープ生活協同組合おいた 黒川和子 桑山道
子 古賀千種 佐藤啓子 サトウ矯正歯科クリニック 里見照
子 澤田和子 下田豊文 庄籠道子 正志美恵 陶山芳江
泉工医科工業株式会社 高田正世 高村久 高山幸子 武田ひ
とみ 田中真理 得能美樹・外山三枝・丸山康子・重留明美・長
友明美・種力フエ・山本裕子・柳弥生 長棟かおる 永山信子
柳楽翼 西尾禮子 羽江育子 久野マス子 平島標子 深堀ミ
チ子 福澤保子 古谷奈美 ぼこあほこ 前田ナギ 松本素子
三根麻理子 三宅哲子 村上和代 山浦真弓 山口はるな
山田美佐子 山本潤子(有)マインド・ネットワーク 吉野弘子
吉森康隆 龍神地釜とうふ工房るあん 渡邊幸之新

〔都道府県別〕

【東京都】6名 【神奈川県】1名 【大阪府】1名 【和歌山県】1
名 【兵庫県】1名 【鳥取県】1名 【島根県】1名 【岡山県】3
名 【広島県】2名 【山口県】4名 【福岡県】20名 【佐賀県】4
名 【長崎県】1名 【熊本県】2名 【大分県】8名 【宮崎県】2
名 【鹿児島県】3名 【沖縄県】1名

●マンスリーサポーターの皆さん
相川靖 相羽美香子 麻生絹代 石本祥二郎 磯道綾子 一瀬
和美 稲田照子 岩口香織 上田英子 植田清子 内野千鶴
子 延壽富美 大麻卓子 大久保仲子 大崎知恵 大場満
片岡八重子 金山涼子 紙森優子 河上雅夫 川崎清美 川
尻愛子 木村雅子 古賀輝洋 後藤宇企子 財津悠子 斉藤
美代子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐竹早苗 佐藤二江 佐藤進
一 佐藤照子 白浜千恵子 鈴木弘子 首藤展子 高山知佐子
竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利
子・朱加 網脇牧子 坪川裕子 富永隆史 友景忍 鳥原良子

合計	2,351,293円
活動支援金	2,232,293円
のぞみ21カンパ	23,500円
雪だるま3号カンパ	95,500円

永江之子 永尾ゆかり 永野沙智子 中村洋子 榑崎悦子
西井えりな 西首延子 丹羽道代 納富育代 平原久子 廣松
初美 福井初子 藤本孝子 洲田三輝 前田靖子 松尾智恵子
松永庸子 水本敬子 三野桂子 村田聡子 村西美由紀 室
屋芳乃 森川キミエ 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄
子 吉村啓 L I F E & A R T 青空 東海林田紀 渡邊真志子
計95名(匿名含む)

(2010年8月1日～10月31日までに募金をして下さった方、な
らびに「のぞみ21」雑貨、チエルノブイリ支援コーヒー・紅茶の購入
を通じて活動を支援して下さいました方です。通信にお名前を紹介する
ことをご許可いただいた方のみ掲載しています。)

★株式会社カタログハウス様より、150万円の運営支援カンパを
いただきました。心よりお礼申し上げます。

美味しく、楽しく ベラルーシ料理 を作って食べよう!

ベラルーシの家庭料理作りにチャレンジしてみませんか?いつものランチとは一味ちがう時間を過ごすことができますよ!



●日 時:12月18日(土)11~14時
●場 所:古賀市中央公民館 研修棟1F調理室
(福岡県古賀市中央2-13-1)
●参加費:1000円
●定 員:15名(要予約・先着順)

※エプロン、タッパーなどをご持参ください。
♪ご予約・問合せはCMN事務局まで♪
TEL/FAX 092-944-3841

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●わすかですがお役に立て下さい。●いつもありがとうございます。●い
ます。何が大切なことなのか、考えながら暮らしていきたい
です。●少しですが、使って頂けたら幸いです。スタッフの方
々のすてきな笑顔を通して拝見できました!●コーヒータ
イム、1杯のコーヒー。生産者、そして私のところへ届くまで
に関わった人、物語れる幸せ、ありがとうございます。●ヒロシマ、ナガ
サキと同じように、チエルノブイリのことも永遠に語り継い
でいきます。●ほんの気持ちばかりですがお役に立ちますよ
うに。●日本から応援しています!●お便りを読みました。
一助となればと送ります。皆様お大事に。●一助になればと
送ります。お便り有難うございます。●いつまでも、ごっごう
さん。●本当に少額ですが人間の最高の善なる特質である
医療行為にカンパします。●お働きに感謝です!!●「人間が
作り出した物」で、「人間が傷つく」という事を世界中からな
くしたいですね!(被爆2世より)●事故から24年も経った
のですね。まだまだ患者さんがいる限り、支援して下さい。●
心ばかりで申し訳ございません。何かの足しにして頂ければ
幸いです。●何の力にもなれませんが、少しの気持ちを込め
て。

編集後記 日ベラ友好交流協会の『ベラルーシ通信』に掲載されたコシケービッチノートを転載することになりました。ご期待ください。(河)

● コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ●



期間中、商品(コーヒー・紅茶、のぞみ21雑貨等)を
5,000円以上ご注文いただいた先着20名の方に、ス
テキナプレゼントが付いてきます!

期間 2010年12月1日(水)~12月15日(水)まで

◆5,000円以上のご注文◆
ポルシチの素(粉末タイプ)、ベラルーシのカレンダー、有機栽培・南インド紅茶のいずれか1点。

◆8,000円以上のご注文◆
のぞみ21で作られたリネン(麻)の箱ティッシュケース。

★プレゼントの内容は指定できませんのでご了承ください。

チェルノブイリ 医療支援 検索

地球にやさしい再生紙と大豆インクを使用しています。